



秋の行楽シーズンに武家屋敷を訪れる観光客(上)と「R」により事業化され好評を博す人力車(左)



まちづくりを強力にリードするアイディア集団(角館町)

町の「ふるさと創生」事業によるワーキンググループに所属したメンバーが母体となって誕生した「角館企画集団トライアングル」。行政と民間を結び付けた数々の仕掛けにより、住民意識の高揚をはじめ地域の活性化に大きく貢献しています。

誕生のきっかけは

行政主導の検討会

370年前に作られた町割り
りが現存し、武家屋敷群が古
木となった枝垂れ桜とともに
今もなお立ち並ぶ、県内でも
稀有の観光資源を持つ角館町。

訪れる観光客は年間約200
万人を数えています。

町は観光立町を視野に、ふるさと創生1億円事業を契機とした活性化施策の一環としてワーキンググループを設置します。メンバーは若手経営者や会社員、商工会関係者など、これからの町を担う世代でした。「住みやすいまちづくり構想」策定のため、若者の定住促進や街並み保存について検討し、ワーキンググループとしての活動を終えようとする時、存続を切望した有志の呼びかけにより、民間ベースのまちづくり研究会が誕生することになります。

平成4年に発足したこの新しい集団は、行政と民間とのパイプ役としての立場を担う観点から、その相関関係を形成する模式図を基にして「トライアングル」と名付けられました。

固着化した意識を 転換させた新しい発想

独立し役場から事務を受け継いだメンバー20名は、四苦八苦しながらも運営を開始します。当初は前身の活動を継承し、若年層定着活動に専心しています。

一方、この町ではまちづくりは直接商工業者であるメンバーたちの経営に影響する一大事です。商売を上向かせるため、たった7haの武家屋敷街に集中する観光客を商人町にいかにつまらしか、が当面の目標となりました。

しかし、観光客向けのセーブルなど商業振興優先の様々な取り組みを試みましたが、従来の手法の延長に過ぎず、客足を商人町へ運ばせることができずにいました。

そんな頃、メンバーから「売る側から客側に視点を変えてみよう」という提案がなされました。来訪者にとって魅力ある観光地とは、をベースに観光客を優先した考え方に意識を転換させた発想です。この時から、企画集団トライアングルの真骨頂とも言つべきまちづくりへの仕掛けがはじ

まります。

民・官を動かした トライアングルの試み

平成7年の桜祭りに合わせ、文化財保護協会の方々に協力を依頼し、普段開放されることになかった商家の蔵や座敷を見物させる「外町（商人町）案内人」を実施。武家屋敷街である内町から外町へと観光客を誘導することに成功します。この活動により、翌年には案内人45人が集まり「歴史案内人組合」が組織され、常時観光案内のできる体制が出来上がりました。

同年秋には、春に比べ寂し

い街並みを印象付ける目的で「人力車」を運行。引き手・乗り手を募集し、武家屋敷街を往来させたところ、風景が一変したとともに大きな話題となりました。人力車は秋田新幹線が開業した平成9年にはJR東日本により事業化され、角館の街並みになくてはならないものとなりました。

他方、トライアングルは行政サイドにも影響を与えます。町内外の観光施設に「旅の思い出帳」を設置し、観光客の意見をフィードバックする事業を初年度から継続してきました。この提言を基に、町は商人町に接した旧武家屋敷の西宮家を買収し、大正時代風に改装、レトロ感覚の店舗として平成10年にオープンさせました。公設民営によるこの西宮家は現在、地域振興拠点として機能しています。

地域活動への配慮と 行政との協力関係

トライアングルの企画スタイルは独自イベント主催ではなく、既存のイベントに付加価値を付けるものです。春には武家屋敷街の風情に合わせ、樺細工伝承館の中庭

で雅楽の演奏会を無料で開催し、古風な角館の桜祭りの印象を高めています。



武家屋敷を舞台に催された講談

また、公開の終わった夜の武家屋敷を会場に、講談や琵琶演奏、胡弓演奏、落語などを催しています。

また、公開の終わった夜の武家屋敷を会場に、講談や琵琶演奏、胡弓演奏、落語などを催しています。

また、公開の終わった夜の武家屋敷を会場に、講談や琵琶演奏、胡弓演奏、落語などを催しています。



新企画「ハイカラさん」スタイルによる記念撮影サービス

でしたが、これまで歴史資料有料公開一辺倒だった武家屋敷側にも新たな活用方法を提案した企画となりました。こうした活動が内町・外町問わず地域住民の協力を得る契機となっています。

平成12年から仕掛けた新企画は「大正浪漫」。矢がすりに袴姿という大正時代の女生の衣装を観光客に着てもらい、外町の商家の風景とともに写真に収まってもらおうというもの。外町の位置付けを具現化する試みです。

地域の理解と期待、行政との協力関係をベースに、利用者の視点に立った積極的な地域おこし活動は、本県自治体の今後の活性化策に大きな影響を与える先駆的事例となっています。